



## 普通のジャッジ？

長崎大学の永谷先生からバトンを引き継ぎました奈良教育大学の堀田です。今年の4月に群馬大学から奈良教育大学に移りました。この執筆のお話を頂き、そもそもエッセイとは？ と思い検索をしてみました。『形式にとらわれず、個人的観点から物事を論じた散文。また、意の趣くままに感想・見聞などをまとめた文章。』（大辞林 第二版）なのだそうで、自由に思うことを書けばいいようですが、ボキャブラリーに乏しい私には、少し慎重になって言葉を選ぶ必要がありそうです。

さて5年間過ごした桐生から、こちらに来る前に心配していたことの一つに、5年ぶりになる通勤電車でのストレスがありました。と言っても普通ならあまり問題はないのですが、お行儀のよろしくない人に出くわす頻度も上がるでしょうし、以前には車内に2時間缶詰というのにも遭ったことがあります。ちょうど今朝の朝日新聞の天声人語欄に、関連する記事が出ていました。バスが遅れたことに腹を立て車内で乱暴な行動に及んだ人と同乗するはめになった不運な話です。『とりわけストレスの発火点が低い都会では、車内のトラブルは茶飯事』とあります（都会という表現に少し抵抗がありますが、濃度が高く衝突頻度が高い条件下では、と解釈すれば良いでしょうか）。幸い電車通勤を再開してここ数ヶ月心配していた不愉快なものには、2回ほどしか出くわしていませんので、この数年で少し私の発火点が上がった？ のかも知れません。普通と感じるレベルが下がったと言っても同じことでしょうか。まさかマナーが向上したのではないと思いますが、それにしても、この数年でJRが遅れる頻度が格段に増えました。例の事故以来、安全のための遅れは仕方ないという雰囲気があり、ある程度それが普通になったようです。いちいち、車両点検のため遅れてとか、前の電車が徐行運転を…などとややうるさく感じるのですが、それも乗客の発火点を上げているのかもしれない。ここで言う普通の状態とは（1気圧、25℃とはいかないように）あいまいで定義できないのですが、日常的に変化していると感じます。ヘッドホンの音漏れも車内での携帯電話通話も普通になってしまったようです。

ところで、毎朝、天声人語だけは目を通して家を出ており、その話の展開の巧さに感心していますが、先日あまり納得のいかない話がありました。野球メジャーリーグで完全試合が、明らかなミスジャッジで不意になってしまった事件を冒頭に紹介した文章です。『「審判も間違える」ことを前提にゲームが成り立っている』そうで、誤審によって不利益を被った選手が、そのせいにしないことを褒めています。ちょうど今、真っ最中のサッカーワールドカップでも審判の下したジャッジが、話題

になっています。私は、球技はやるもの見るのも好きなのですが、一方でフィギュアスケートや体操など審判が採点するスポーツは見ていて、（順位に納得はいつでも）どうもすっきりしないものがあります（厳密な採点基準に則っての採点であることは分かっていますが）。しかし、これまで比較的公平と思っていた球技類においても、『人間は間違えるものなので審判の下したミスジャッジもまたスポーツの醍醐味』などと言ってしまうのであれば、私としては全くしらけてしまいます。人間はミスを犯すものということ自体は否定する余地もなく、先の完全試合を台無しにした審判に限らず、悪気があった誤審でなければ、審判が一方的に悪いとは思わないのですが、そのあたりようもない事態を美化することには抵抗を感じます。野球においてもサッカーにおいても判定のビデオ導入が話題になっています。私は大賛成です。テニスでも相撲でもとくにそのようなシステムが導入されています。いったん導入されると適用範囲に制限がからなくなるなどが否定理由でしょうか。これも普通であれば問題ないと思うのですがいかがでしょうか。完全試合の例はまたチャレンジできると考えるのであればそれでいいですが、それが人生で最後の機会なのだとしたら、さらに自分がその立場であれば、やはり納得がいきません。

しかしながら、そんなことを考えていると、ジャッジを下すこと自体、スポーツに限らず生活において日常のことで、研究助成金やなんとか賞の審査などジャッジそのものであることに気がつきました（これはミス？ してもビデオを導入というわけにはいきませんが）。そもそも投資には、公平という言葉の定義が出来ないように思いますが、私も大いにジャッジを受けているわけです。何にせよ普通の感覚を持ちながら、普通とは異なることをやっていく（この文章は普通か？ と自問して）のが、今後私の目指すべき道であろうと考えています。

最後に、このエッセイを書くことになり、何か書かなければ、何かネタはないか、と考えていると、何気なく見ていた車窓の風景からも、いろいろと感ずることがあり、常に頭の中で映像を文字に書き換える作業をしていることに気がつきました。それがプラスのことなのであると思っていますが、とりわけ毎朝二時間を費やす電車生活を、より有効に使うためのヒントを得た気がしています。

今回は、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部の竹内政樹先生にお願い致しました。快くお引き受け頂きありがとうございました。

〔奈良教育大学 堀田弘樹〕